

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」申込書

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」において、下記のとおり自らの調査研究を発表したいため、募集要項に基づき応募します。

研究テーマ	インターネットによる関係創出から都会と地域の若者がつながり、ソリューションを提供する
-------	--

◆応募者（応募代表者）

(フリガナ) ワタナベ ナツキ	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
氏名 渡辺 夏希	亜細亜大学 都市創造学部 都市創造学科 林ゼミ

◆共同提案者

氏名(フリガナ)	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
芝本知賢(カベ トモヨシ)	亜細亜大学 都市創造学部 都市創造学科 林ゼミ
石川和宏(イカワ カズヒロ)	亜細亜大学 都市創造学部 都市創造学科 林ゼミ

◆研究の動機、テーマに関する考え、研究計画・手法などを、600字以内で記載

わが国では地域への移住や二拠点居住が徐々に浸透するなか、新型コロナウイルス感染症の拡大により、今までの働き方、考え方などを変更せざるを得ない状況となった。このような中で、少子高齢化という社会課題もあり、今後、私たち若者がどのような選択肢をもって生きていくのが肝要かを知りたいと考えたのが、この研究の動機である。

新型コロナウイルスの影響により、リモートワークが増加し、在宅でのインターネットの利活用がさらに加速し、様々な人々がオンラインでつながる機会が増えた。このつながるという関係創出から、都市と地域の若者がオンラインで協働する機会を生み出し、都会や地域の課題解決等、すなわち、都会や地域の社会課題解決において、新たな提案ができるのではないかと考える。

都会と地域双方をフィールドとして、都会と地域の若者のつながる仕組み、Win-Win となる新たなしくみや新たなシステム等について、双方の若者が知恵を出し合ってどのような協働ができるかの提案が研究目的である。

研究手法は、質的研究を用いて、既存情報とインタビュー結果等から分析考察し、アクションプラン等の提案を試みる。オンラインでつながった都会と地域の若者による信頼関係構築方法やコミュニティの形成方法、ディスカッションできる場創り、課題導出方法、課題解決方法を本プロジェクトメンバーに加え、林ゼミの他の学部生や大学院生（留学生）等の意見も参考にする予定である。